



【アルコール依存編】

■悪い対応

仮設住宅で一人暮らしをする高野さん。若い頃から毎日晚酌し、お酒が理由で職場の欠勤や、妻との離婚。健診では脂肪肝と高尿酸血症も認められ、お酒を減らそうと試みるものの、うまくいきません。避難所から仮設住宅に移ってからは、昼から飲酒し、最近は食事あまり摂らず、転倒による擦り傷もあります。



保健師：ずいぶんお酒臭いですね。また飲んでいるんですね？

男性：これは昨日の酒だよ。大体、会社の再開もわからない状況で、飲まずにいられるか。



保健師：飲まないでいる人だって沢山いますよ。毎晩飲んでいるんですか？

男性：一杯キューっとやって寝てるよ。そのくらいいいだろう。

保健師：寝酒だけじゃないですよ、この匂い…お食事はどうされているんですか？



男性：1日1食は食べているかな…

保健師：1食しか食べていないんですね。どのくらい飲んでいるのですか？



男性：う〜ん…

保健師：正直に言ってください。日本酒ですか？

男性：…うん、2日で一升だな。

保健師：そんなに（驚く）。ダメですよ、それじゃあ…



男性：兄貴みたいなこと言わないでくれ…

保健師：そりゃあ、誰でもいいますよ、そんなに飲んでいたら。
高野さん、あなた完全に依存症ですよ。

ころんで顔も傷だらけですよね。



男 性：体調悪くてふらついているんだ。食欲もないしね。

保健師：お酒は毎日飲んでいれば、食欲もなくなりますよ。
量は増えているのではありませんか？

男 性：別にこれくらい飲むのはいくらでもいるだろう。

保健師：そんなわけないじゃないですか。顔の傷だって、飲んで転んでいるんでしょう。

男 性：別に俺が飲んだって勝手だろう。転んでなんかいない。誰かに迷惑かけているか。

保健師：こんなにぶんぶん匂いをさせていりゃ、迷惑でしょう。完全に依存症ですね。

男 性：俺をアル中だっていうのか！？家にこもって迷惑かけなきゃいいんだろ。

保健師：そんなわけにはいかないでしょう。
こんな状態になって、訪ねてくれるお兄さんに悪いと思わないんですか？

男 性：ああ、どうせ俺は人の迷惑にしかならない人間だよ。かみさんもそう言って出て行ったし、別に死んだっていいんだ。

保健師：そんなこと言って、本当に死んだって知りませんよ。
お酒の飲みすぎで身体だって悪くなるじゃありませんか。主治医の先生も心配するでしょう。

男 性：別に、病院には行かないから大丈夫だよ。こんな、はした酒であーだこーだ言われる筋合いはない。帰ってくれ。

保健師：そういうわけにはいきません。絶対に病院に行ってください。

男 性：絶対に行かないね。2度と来ないでくれ！

